

パリポリくんバス新田ルート of 改善計画案について

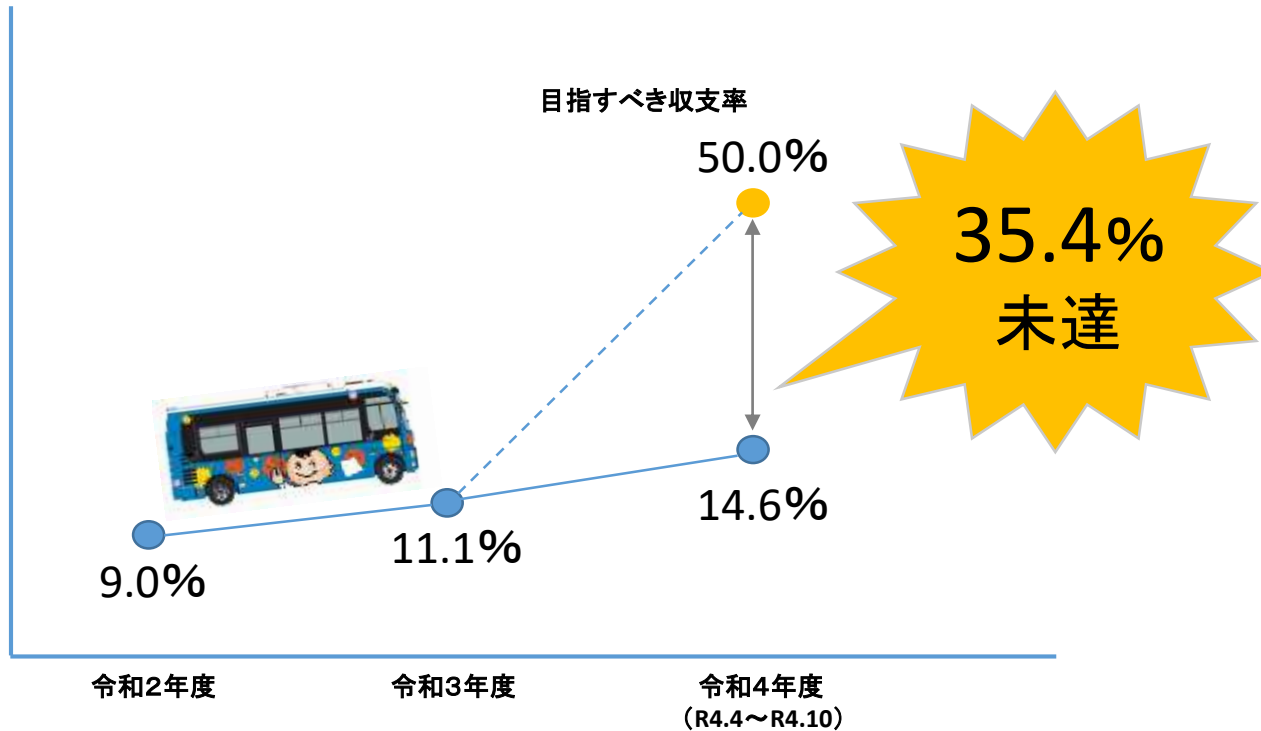
(目次)

1. 改善計画の策定背景について(前回会議の振り返り)
2. 改善計画案について(前回会議の振り返り)
3. 前回会議のご意見・ご提案に関する検証について
4. 今後のスケジュールについて

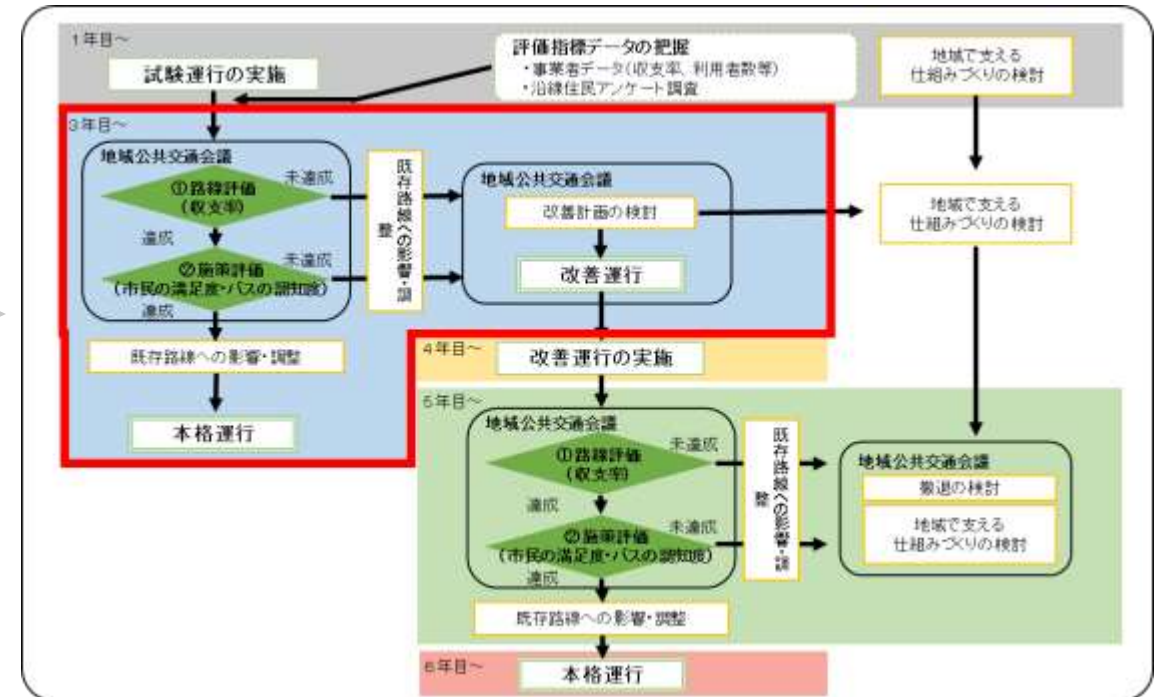
1. 改善計画の策定背景について(前回会議の振り返り)

パリポリくんバス新田ルートは「公共交通再編計画」・「地域公共交通網形成計画」に基づき、5年間の試験運行を実施しています。今年度は運行開始3年目であり、計画内で位置付ける運行評価の中間年度に当たることから、評価結果に応じた対応を実施する必要があります。現状、パリポリくんバス新田ルートは計画の路線評価指標としている「収支率50%以上」を下回ることから、運行評価のフローに従い、改善計画を検討します。

【収支率の推移】



【運行評価フロー図】



2. 改善計画案について(前回会議の振り返り)

改善計画の策定に当たり、原因の特定・ニーズの抽出をするため、沿線の町会を対象としたアンケート調査を実施。

【調査概要】

調査実施時期: 令和3年9月～令和4年1月

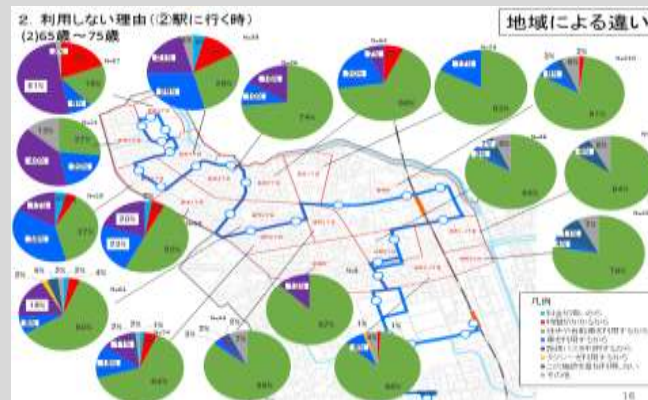
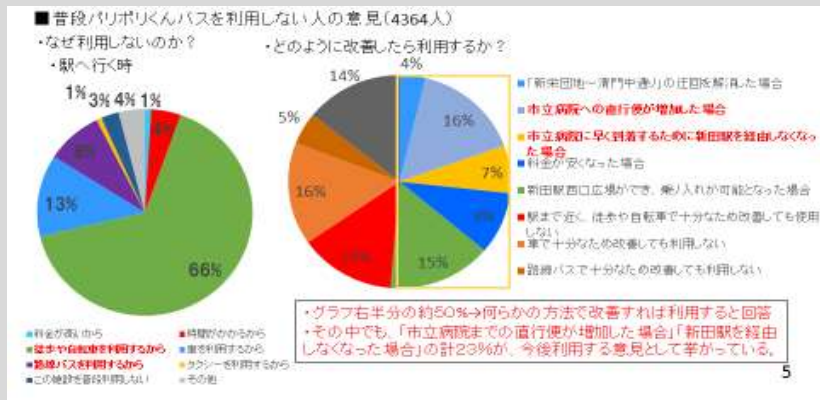
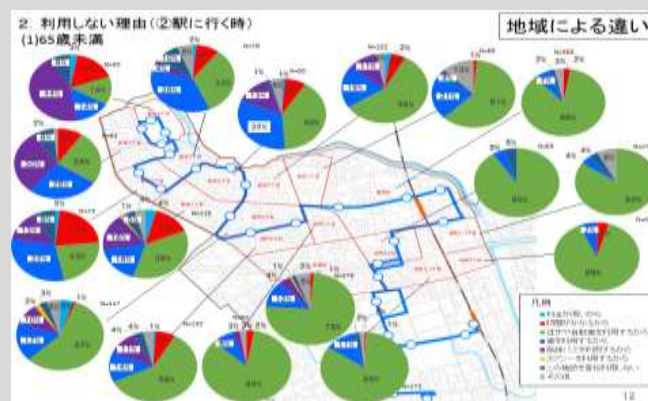
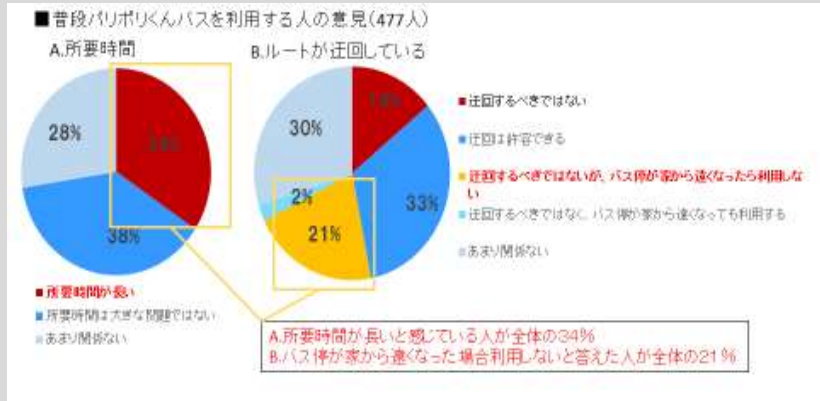
対象: 新田西部ブロック町会加入世帯(10,288世帯)

実施方法: 地元自治会協力のもと回覧形式で全世帯にアンケートを配布・回収

回収部数: N=4,926(回収率47.9%)

調査内容: 新田ルートの課題と改善について

(回答結果)



2. 改善計画案について(前回会議の振り返り)

アンケート調査結果の取りまとめ及び改善計画の方向性は以下のとおり。

【アンケート調査結果】

- ①回答者の9割が普段パリポリくんバス新田ルートを利用しないと回答している。
利用しないと回答した人のうち、8割が利用しない理由(駅へ行く時)として「徒歩・自転車・自家用車を利用する から」と回答しているほか、1割が「路線バスを利用するから」と回答している。
※地域ごとに見ると、新田駅周辺の住民は8～9割が「徒歩・自転車・自家用車」、新栄団地周辺の住民は5割が「路線バス」を利用するため、パリポリくんバス新田ルートを利用しないと回答している。
- ②普段パリポリくんバス新田ルートを利用しないと回答した人のうち、2割が「市立病院へ早く着くため新田駅を経由しない」・「市立病院への直行便が増加した場合」に利用をすると回答している。
また、普段パリポリくんバス新田ルートを利用すると回答した人のうち、3割がパリポリくんバス新田ルートの課題として「所要時間が長い」と回答している。
※地域ごとに見ると、新田駅周辺の住民は4～6割が「改善しても利用しない」、新栄団地周辺の住民は6～7割が「何かしら改善をしたら利用する」と回答している。
- ③普段パリポリくんバス新田ルートを利用すると回答した人のうち、2割が「バス停が家から遠くなったら利用しない」と回答している。

【改善計画の方向性】

アンケート調査結果を踏まえ、ルート変更によって改善を実施する。
なお、ルート変更の条件は以下の通り。

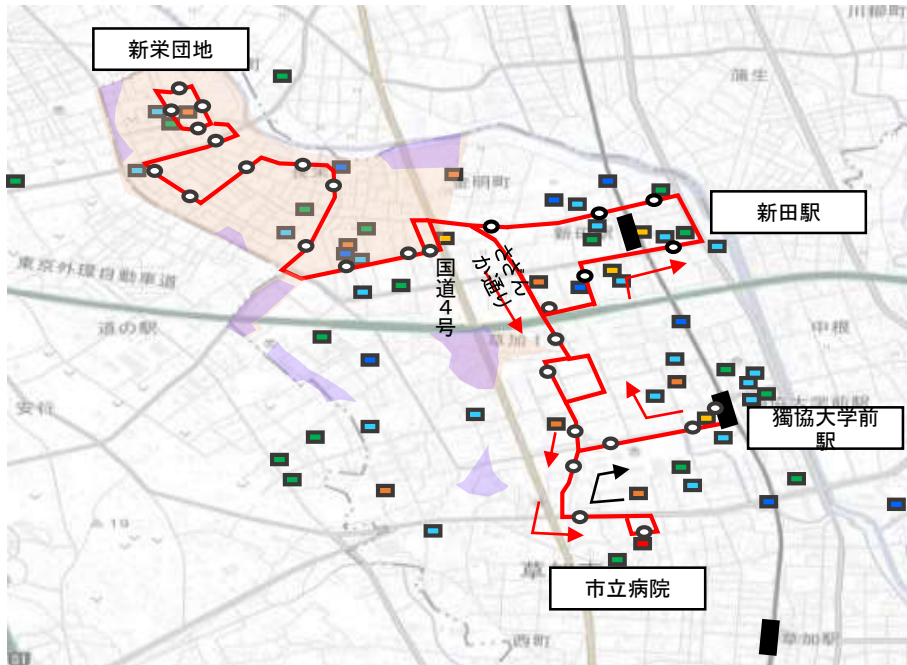
- ①路線バスとの競合を避け、役割分担を図るルートとする。
- ②市立病院までの所要時間の短縮を図れるルートとする。
- ③既存のバス停を可能な限り利用するルートとする。

2. 改善計画案について(前回会議の振り返り)

改善計画の方向性を踏まえ事務局で検討した案は以下のとおり。

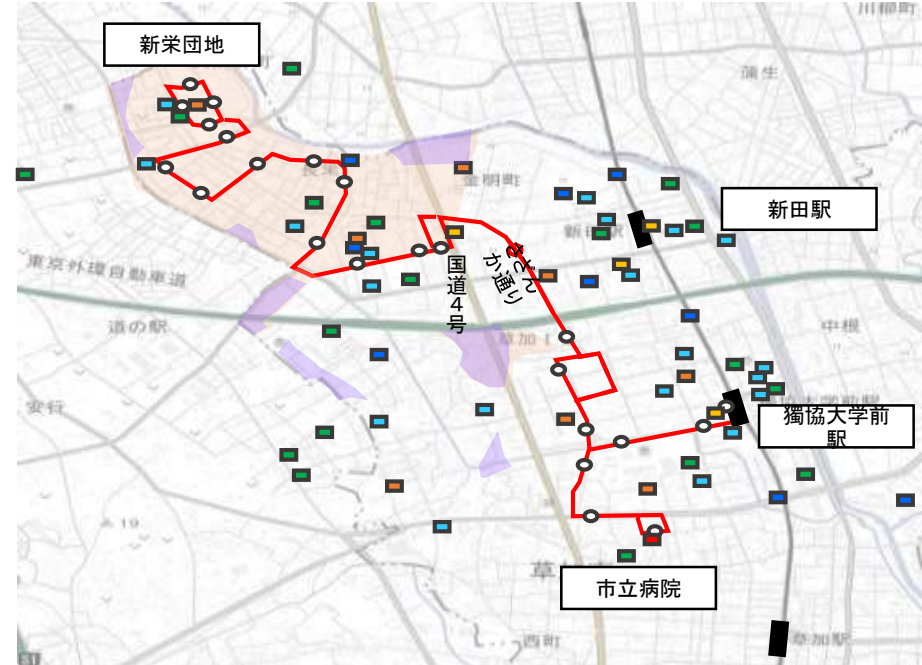
【改善計画案①】

- ・ルート概要 現行バス停を利用し、新栄団地から市立病院までの所要時間を最短化した改善案
(起点)新栄団地-(終点)草加市立病院
(起点)草加市立病院-(経由)獨協大学前駅西口-(経由)新田駅東口-(終点)新栄団地
路線延長: 20.4キロメートル(現行: 21.57キロメートル)
- ・ルート変更条件への対応
 - ①役割分担: 新栄団地→草加市立病院のみ路線バスと役割分担
 - ②所要時間: 新栄団地→草加市立病院: 32分 草加市立病院→(駅経由)→新栄団地: 55分
 - ③バス停: 現行のバス停数から減少なし
- ・収支率改善への効果(利点・懸念点)
 - ①新栄団地→市立病院までのアクセス性を向上させることで新規需要を確保できる
 - ②市立病院→新栄団地は引き続き新田駅を経由することで現行の利用者の流出を防止できる
 - ③行き帰りでルートが異なることから、利用者にとって分かりづらく利用されない可能性がある



【改善計画案②】

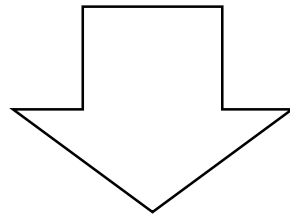
- ・ルート概要 草加市立病院から新栄団地までの所要時間を短縮した改善案
(起点)草加市立病院-(経由)獨協大学前駅西口-(終点)新栄団地
路線延長: 18.4キロメートル(現行: 21.57キロメートル)
- ・ルート変更条件への対応
 - ①役割分担: 路線バスと明確に役割分担(新田駅を経由しない)
 - ②所要時間: 草加市立病院⇄新栄団地 40分(現行: 55分)
 - ③バス停: 現行のバス停数から減少(5停留所)
- ・収支率改善への効果(利点・懸念点)
 - ①ターゲットを新栄団地周辺の住民に明確化し、新栄団地⇄市立病院(双方向)のアクセス性を向上させることで新規需要を確保できる
 - ②行き帰りとも新田駅を経由しないことで現行の利用者が流出する可能性がある。
※アンケート調査より、新田駅周辺の住民は「徒歩・自転車・自家用車」を移動手段として利用する割合が高く、改善しても利用しないと回答した割合も高い



3. 前回会議のご意見・ご提案に関する検証について

前回会議にて委員の皆様から頂戴したご意見・ご提案の主な内容は以下のとおり。

- ①コミュニティバスの目的に沿ったルート変更になっているのか？
- ②ルートを変更したことで、交通不便地域が増加することにはなっていないか？
- ③多くの高年者が利用しやすいルート設定になっているのか？



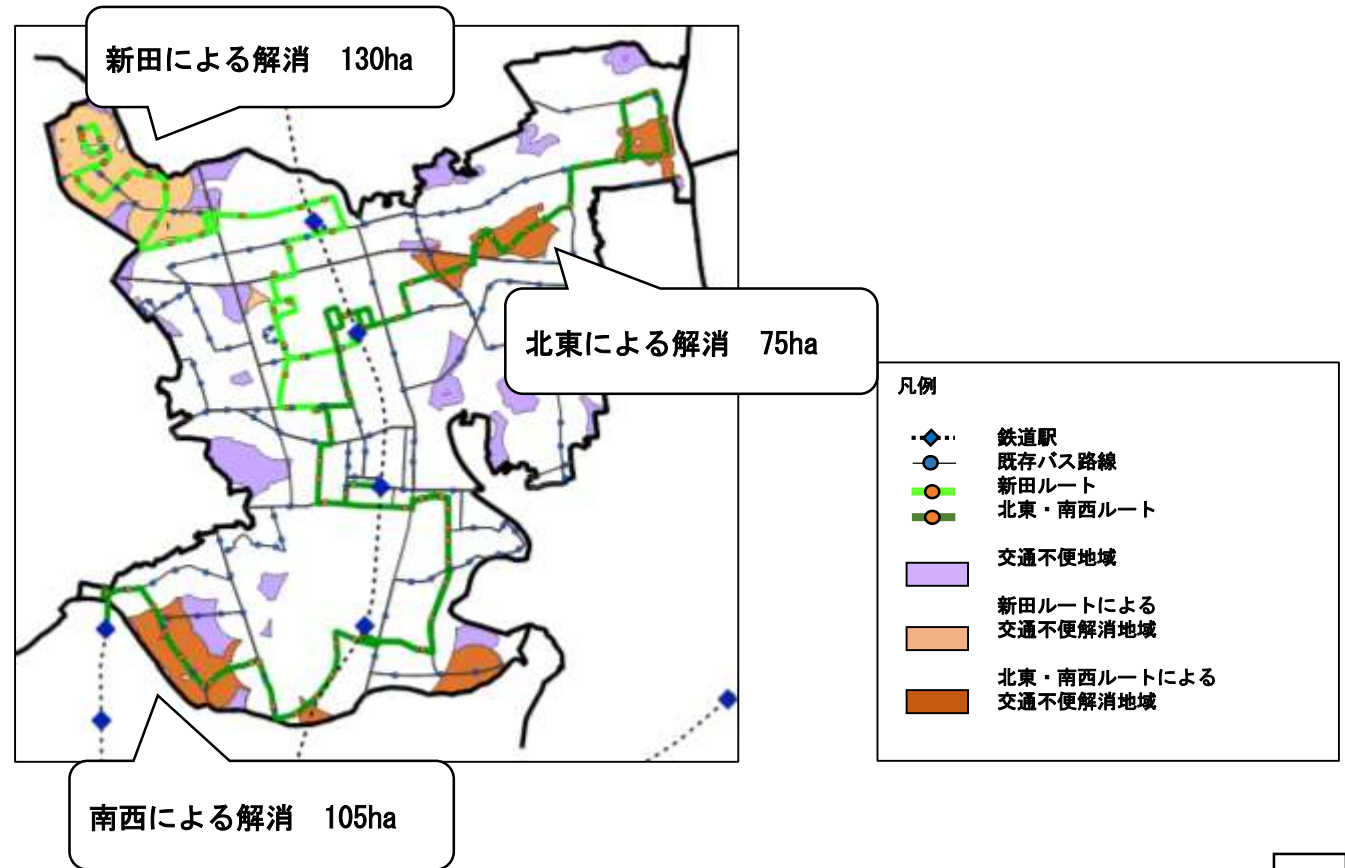
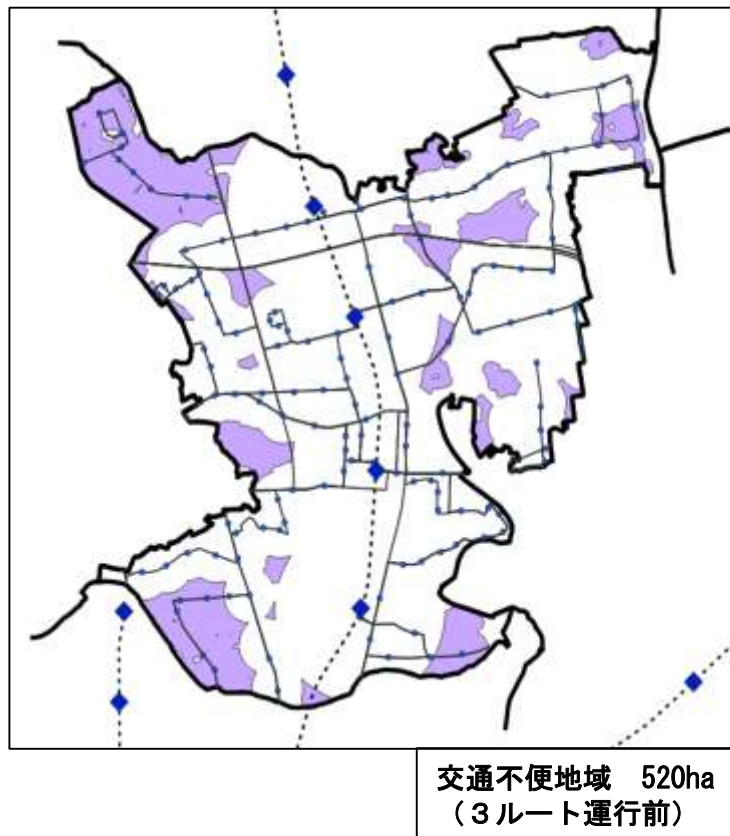
事務局にて整理・検証

3. 前回会議のご意見・ご提案に関する検証について

①コミュニティバスの目的に沿ったルート変更になっているのか？

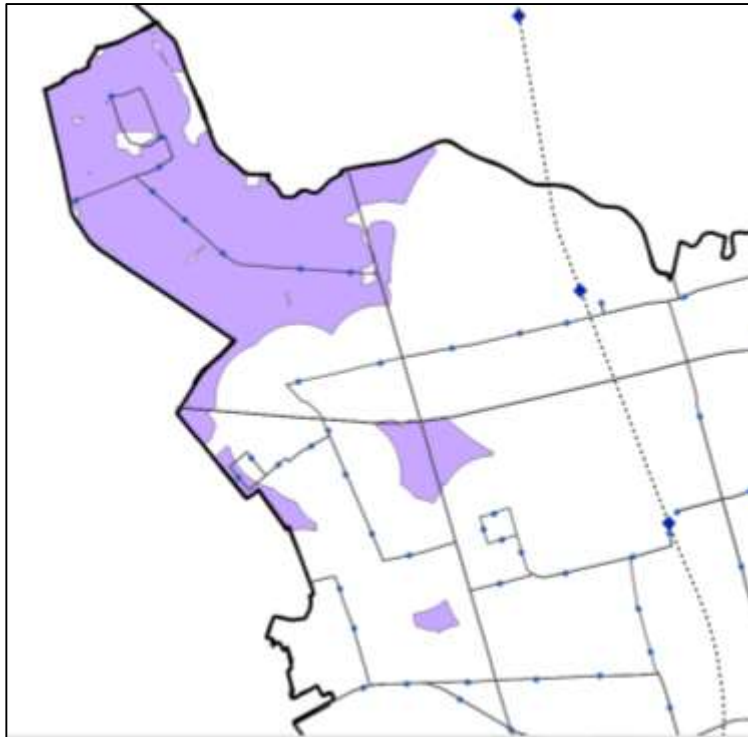
⇒コミュニティバスの目的は「交通不便地域の解消」

これまでに北東・南西・新田ルートの運行により、交通不便地域(520ha)の約60%(310ha)を解消(残り210ha)



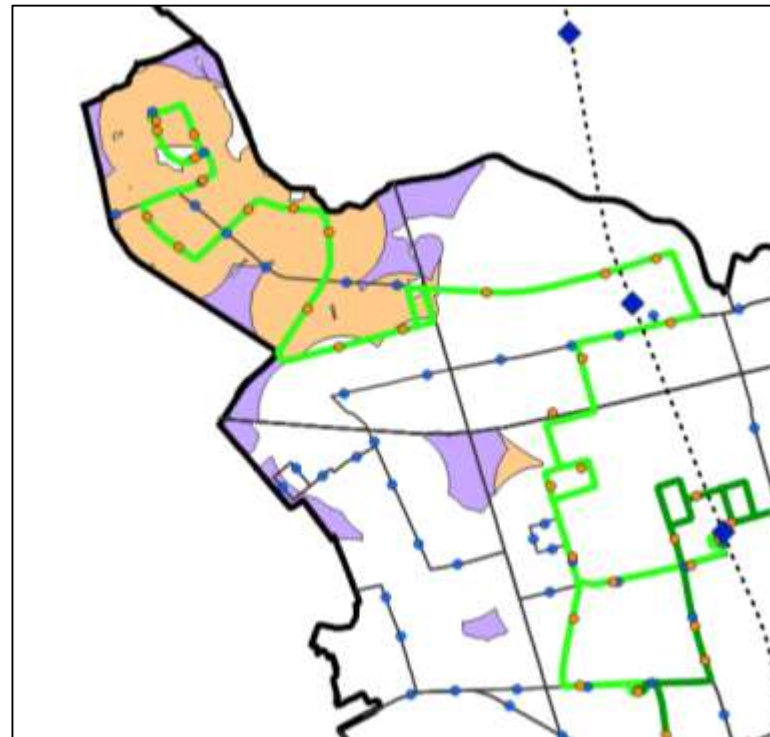
3. 前回会議のご意見・ご提案に関する検証について

新田ルート導入前の交通不便地域(下記図内)の総人口は約17,400人
新田ルート運行開始により、交通不便地域の居住者約12,500人の移動を確保



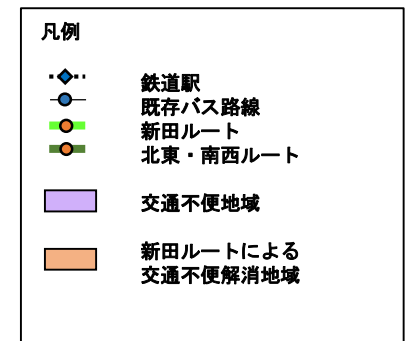
新田ルート導入前の交通不便地域(図内)
総人口: 約17,400人
高年者(65歳以上)人口: 約4,200人

※250mメッシュ人口を元に算出



新田ルート運行開始による解消人口
総人口: 約12,500人
高年者(65歳以上)人口: 約3,200人

※250mメッシュ人口を元に算出

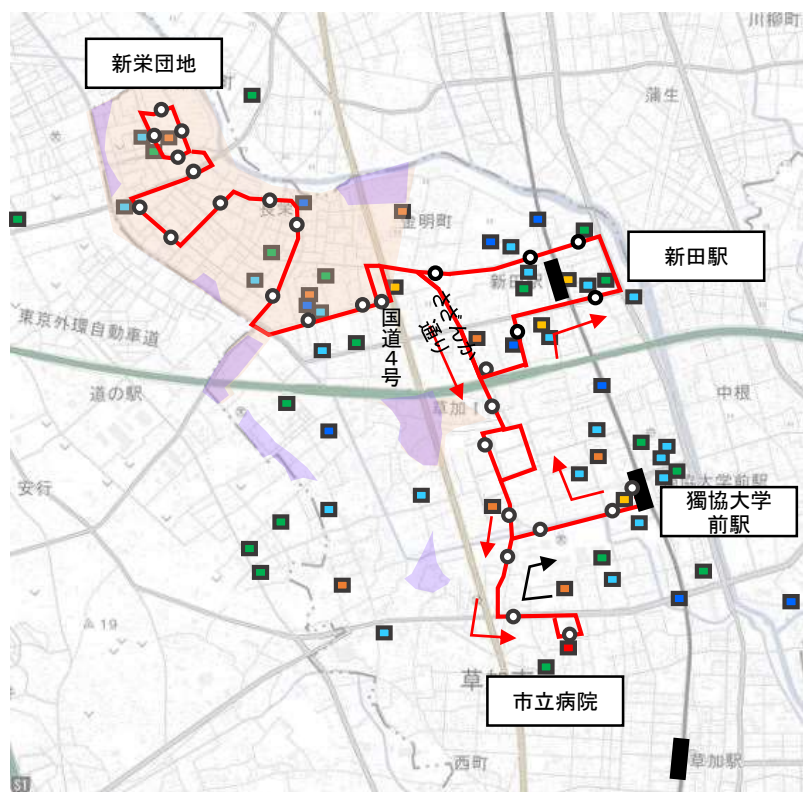


3. 前回会議のご意見・ご提案に関する検証について

②ルートを変更したことで、交通不便地域が増加することにはなっていないか？

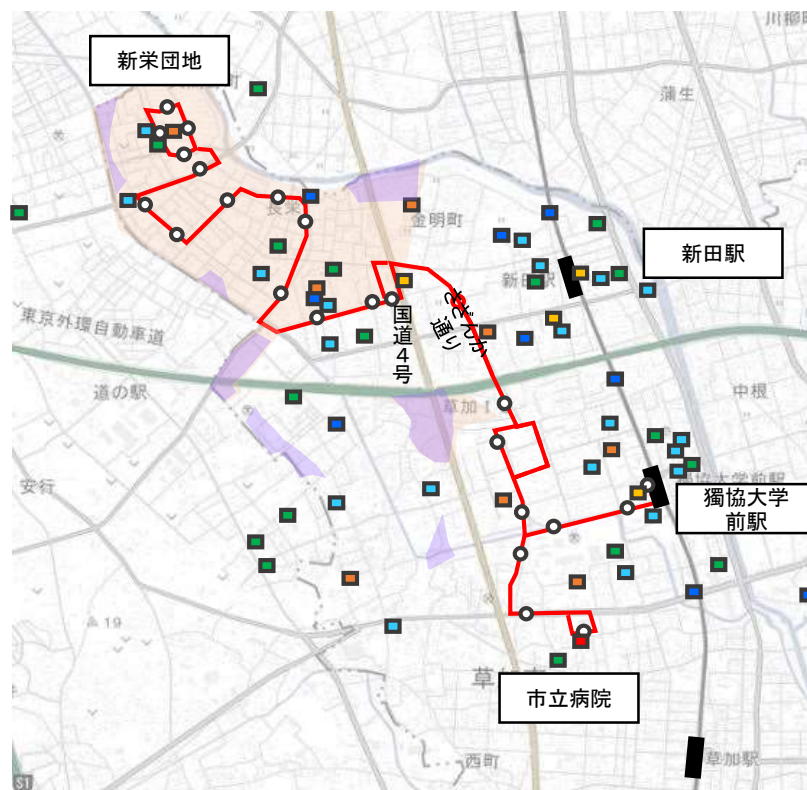
⇒今回の改善計画案①及び②ともに、ルート変更による現行の交通不便地域の面積に増加はなし
「交通不便地域の解消」の目的は維持しつつ、収支率改善のためルート変更を計画

【改善計画案①】



交通不便地域の面積(210ha→210ha)

【改善計画案②】



交通不便地域の面積(210ha→210ha)

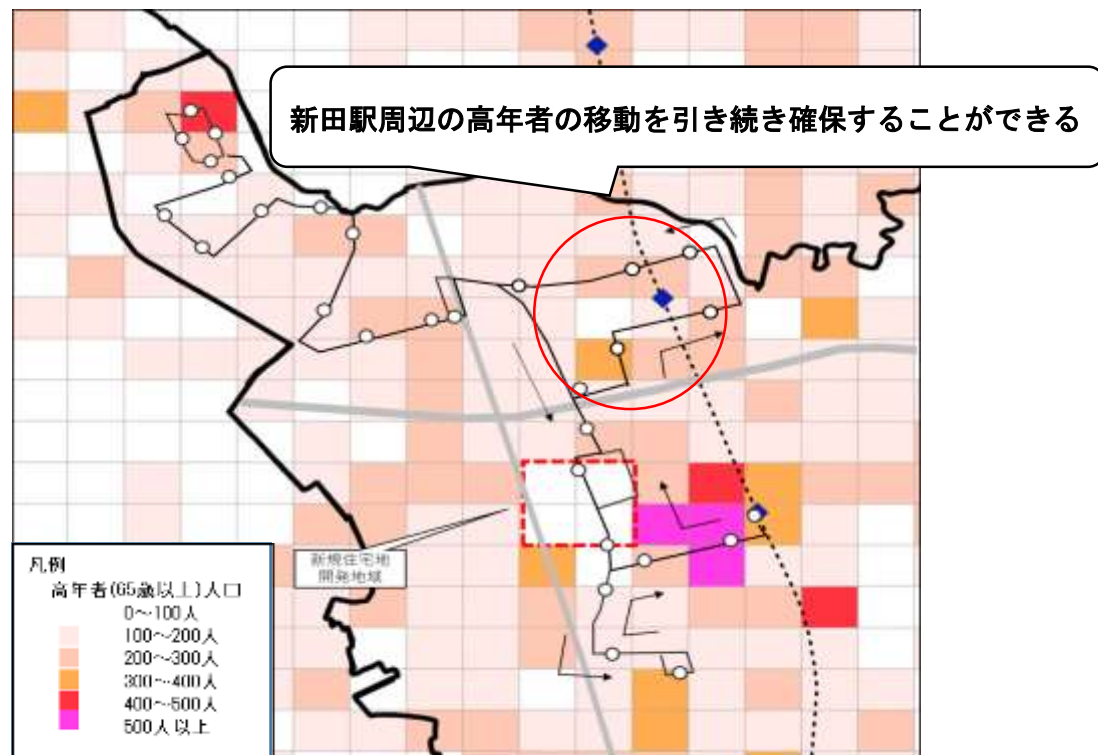
3. 前回会議のご意見・ご提案に関する検証について

③多くの高年者が利用しやすいルート設定になっているのか？

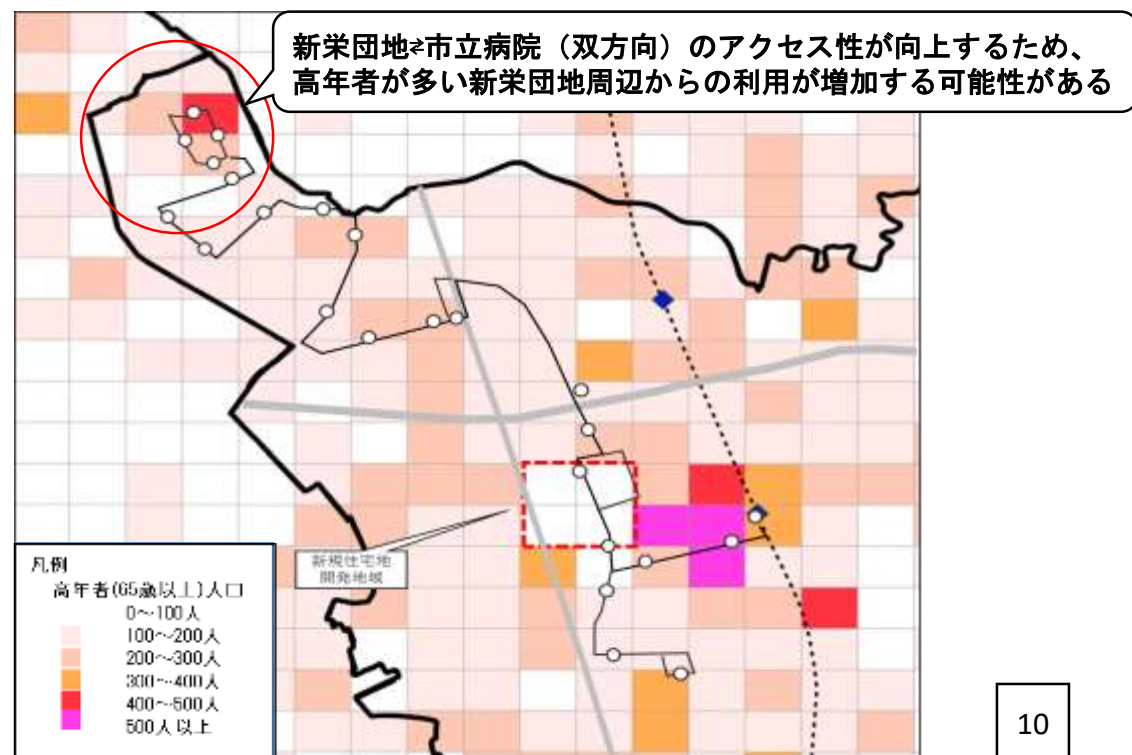
⇒改善計画案①は、引き続き新田駅周辺を運行するため、新田駅周辺の高年者の移動を確保することができるが、行きと帰りでルートが異なることから、利用者にとって分かりづらく利用されない可能性がある

⇒改善計画案②は、新田駅周辺を運行しないものの、新栄団地⇄市立病院(双方向)のアクセス性が向上するため、高年者が多い新栄団地周辺からの利用が増加する可能性がある

【改善計画案①】



【改善計画案②】



3. 前回会議のご意見・ご提案に関する検証について

これまでの説明を踏まえた各改善計画案の特徴・事務局の評価は以下のとおり。

【各改善計画案の特徴】

	改善計画案① (経路) ・新栄団地→市立病院 ・市立病院→獨協大学前駅→新田駅→新栄団地	評価	改善計画案② (経路) ・新栄団地⇄獨協大学前駅⇄市立病院	評価
所要時間の短縮	・市立病院行の所要時間の短縮(55分→32分) ※新栄団地行は現行と変更なし(55分)	△	・所要時間の短縮(55分→40分)	○
路線バスとの役割分担	・新田駅→新栄団地間にて路線バスと役割が重複	△	・新田駅を経由しないことで路線バスと役割分担	○
現行のバス停利用	・現行のバス停をそのまま利用	○	・新田駅周辺のバス停がなくなる(5停留所)	△
収支率改善への効果	・新栄団地→市立病院までのアクセス性を向上させることで新規需要を確保できる ・市立病院→新栄団地は引き続き新田駅を経由することで現行の利用者の流出を防止できる ・行き帰りでルートが異なることから、利用者にとって分かりづらく利用されない可能性がある	△	・ターゲットを新栄団地周辺の住民に明確化し、新栄団地⇄市立病院(双方向)のアクセス性を向上させることで新規需要を確保できる ・行き帰りとも新田駅を経由しないことで現行の利用者が流出する可能性がある(アンケート調査より、影響は軽微と想定)	○
交通不便地域	・現行の交通不便地域の面積から増減なし	○	・現行の交通不便地域の面積から増減なし	○
高齢者に対する利便性	・引き続き新田駅周辺の高齢者の移動を確保できる	○	・新栄団地⇄市立病院のアクセス性が向上	○
事務局の評価		△		○

⇒以上のことから、事務局としては**改善計画案②**で進めていきたい

4. 今後のスケジュールについて

